

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭57-119056

⑫ Int. Cl.³
E 04 F 15/04

識別記号

厅内整理番号
2101-2E

⑬ 公開 昭和57年(1982)7月24日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 床材の一部貼替え方法

⑮ 特 願 昭56-5347

⑯ 出 願 昭56(1981)1月15日

⑰ 発明者 梶原悌三

門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

⑱ 発明者 藤田清臣

門真市大字門真1048番地松下電

工株式会社内

⑲ 出願人 松下電工株式会社

門真市大字門真1048番地

⑳ 代理人 弁理士 石田長七

明 講 審

1. 発明の名称

床材の一箇貼替え方法

2. 特許請求の範囲

① 床に既設の床材の一帯を除去し、除去された床材に接着していった両床材の接接着面間に設つて離さぬ部を切欠し、新しい床材の内両端面に沿て剥けられた凹所内に既設性合成樹脂を注入し、この新しい床材を除去された床材のもとの位置に込み、この凹所内の既設性合成樹脂を発泡させて接着する床材の離さぬ部に嵌合する離さねを形成することを特徴とする床材の一箇貼替え法。

② 床材の離さぬ部及び離さぬ部を一定ピッチ規則的な波状に形成することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の床材の一箇貼替え方法。

発明の詳細な説明

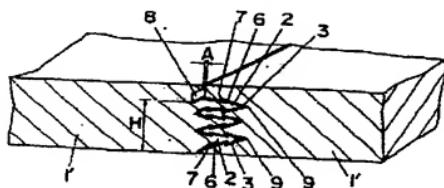
本発明は床材の一箇貼替え方法に関する。

既設性合成樹脂の床材(I)にあつては、第1図に示す

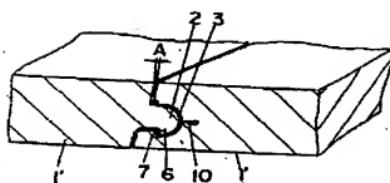
ように、両端にのこ歯状の嵌合部(2)を持つ離さぬ部(1)と両内面にのこ歯状の被保止部(3)を持つ離さぬ部(1)とを嵌合させることにより床材(I)同士を連結して床に既設されており、しかも保合部(2)と被保合部(3)とが互に平行に密着して嵌合することにより床材(I)間の隙間(4)が最小になるようにしてあつた。また、離さぬ部(1)の上に設けた空所(5)に刃穴を設けることによつて刃の効く厚み(6)を大きくし、刃の効きを良くしてあつた。また離さぬ部(1)の底に接着剤(7)を塗り付けておいて離さぬ部(1)と離さぬ部(1)の離合面積を大きくすると共に、床下からの振動を防止してある。

また、別な離合体基材の床材(II)にあつては、第2図に示すように、床材(II)一側の離さぬ部(1)と床材(II)他の離さぬ部(1)とを嵌合させ、離さぬ部(1)下面の保合部(2)と、離さぬ部(1)下内面の保合部(2)に平行な被保合部(3)とを保合させて床材(II)間の隙間(4)を最小にして密着に連結してあつた。また、離さぬ部(1)の底には切り縫跡(8)を切入してあつて、離さぬ部(1)を離さぬ部(1)に嵌合させると同時に離さ

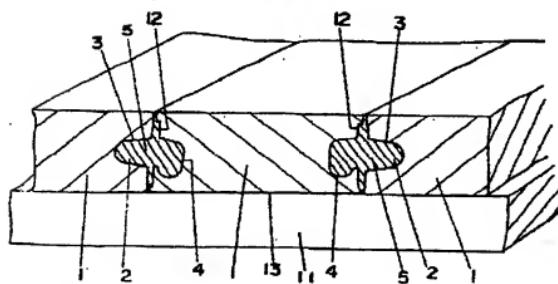
第1図



第2図



第3図



第4図

